

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年12月1日(2016.12.1)

【公表番号】特表2015-534949(P2015-534949A)

【公表日】平成27年12月7日(2015.12.7)

【年通号数】公開・登録公報2015-076

【出願番号】特願2015-536925(P2015-536925)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 15/113 (2010.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 31/12

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 U

A 6 1 K 39/395 S

A 6 1 K 39/395 T

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 31/7088

C 0 7 K 14/47 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

C 1 2 N 15/00 G

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月11日(2016.10.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

治療に使用するための、CEACAM1阻害剤、PD1阻害剤、および/またはLAP阻害剤のうちの少なくとも2つの剤の治療的有効量を含む、治療用の組み合わせ。

【請求項2】

(i) 対象における免疫応答を増強する、および/もしくはT細胞寛容を低下させるための、または(ii) 慢性疾患の処置のための、請求項1記載の治療用の組み合わせ。

【請求項3】

前記慢性疾患が、がん；持続感染；および慢性ウイルス感染からなる群より選択される

、請求項2記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 4】

前記少なくとも2つの剤が、

(i) CEACAM1阻害剤およびPD1阻害剤、

(ii) CEACAM1阻害剤およびLAP阻害剤、

(iii) PD1阻害剤およびLAP阻害剤、または

(iv) CEACAM1阻害剤、PD1阻害剤およびLAP阻害剤

である、請求項1～3のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 5】

(i) 同時にCEACAM1、PD1および / もしくはLAPのうちの少なくとも2つと物理的に接触し

、かつ該少なくとも2つを阻害することが可能な分子を含む、二重特異性阻害剤、

(ii) CEACAM1阻害剤である第1部分およびPD1阻害剤である第2部分を含む、二重特異性剤

、

(iii) CEACAM1阻害剤である第1部分およびLAP阻害剤である第2部分を含む、二重特異性
剤、または

(iv) LAP阻害剤である第1部分およびPD1阻害剤である第2部分を含む、二重特異性剤

を含む、請求項1～4のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 6】

前記阻害剤の1つもしくは複数が阻害核酸である、および / または前記阻害剤の1つもしくは複数が抗体試薬であり、任意で、該抗体試薬が、CEACAM1；PD1；およびLAPからなる群より選択される標的を結合し、任意で、該抗体試薬が、標的によって媒介されるシグナル伝達を阻害する、請求項1～5のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 7】

前記CEACAM1阻害剤が、SEQ ID NO:32に記載の配列を有するCEACAM1分子、またはSEQ ID NO:32の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～6のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 8】

前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1リガンド相互作用部位を結合し、任意で、該CEACAM1阻害剤が、SEQ ID NO:32のアミノ酸残基番号1～429のいずれかに対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～7のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 9】

前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1の細胞外ドメインを結合する、および / または前記CEACAM1阻害剤が、CEACAM1のホモフィリックな相互作用ドメインを結合し、かつCEACAM1分子のホモフィリックな相互作用を阻害する、請求項1～8のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 10】

前記PD1阻害剤が、SEQ ID NO:1に記載の配列を有するPD1分子、またはSEQ ID NO:1の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～9のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 11】

前記PD1阻害剤が、PD1リガンド相互作用部位を結合し、任意で、該PD1阻害剤が、SEQ ID NO:1のアミノ酸残基番号41～136のいずれかに対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～10のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 12】

前記LAP阻害剤が、SEQ ID NO:34に記載の配列を有するLAP分子、またはSEQ ID NO:34の対立遺伝子変種もしくはスプライス変種を結合する、請求項1～11のいずれか一項記載の治療用の組み合わせ。

【請求項 13】

前記LAP阻害剤が、LAPリガンド相互作用部位を結合し、任意で、該LAP阻害剤が、SEQ ID NO:33のアミノ酸残基番号218に対応するアミノ酸残基に結合する、請求項1～12のい

れか一項記載の治療用の組み合わせ。